

【解読文】

一^(表紙) 天保十亥年正月

秋葉道中日記ノ控

下小山田村

若林氏

目出度初り

亥正月二日秋葉寺江出立

同日雲^(曇)リ昼ヨリ小雨少々降り出し

星谷勸音堂前迄要助馬ニ乗り

一 廿八文

星谷茶代厚木

渡し場はし錢

一 四拾八文

厚木釜成屋

昼飯料

同日早七ツ時大磯宿へ着

二日晚泊り大磯宿右^(右)り側

山本屋甚右衛門

一 式百廿四文

同旅籠代

一 廿四文

同所茶代割

三日 小雨降り

大磯宿より出立夫ヨリ不休湯本迄

五里行同日昼飯湯本ニ而支度

一 四拾八文

湯本昼飯代

一 拾六文

わらんじ代

夫ヨリ壺里行畑宿ニ而小休致

一 六拾文

畑宿雑煮代

是より山坂難所之道也七ツ時頃

御関所ヲ通り

三日晚泊り箱根宿右^(右)り側

はふや四郎右衛門

一 式百四拾八文

同所はたご

一 四拾九文

茶代割合

一 三十式文

途中茶料

四日雪降り

箱根より三島へ加籠(駕)ニ三朱ニ而乗り

雪雨まじり降り誠道悪敷夫ヨリ

途中より不快ニ而沼津迄又六百文ニ而

乗り九ツ半時頃沼津へ着

同日泊り沼津町右(左)り側

元問屋

一三百文 はたご

一三十式文 吉原昼飯

一三十式文 わらんじ八足

五日沼津より出立

一三十式文 元市場

白酒

サツタ峠

一四拾八文 あわび焼

一三十六文 富士川船賃

五日朝沼津より出立吉原ニ而

昼飯支度元市場富士の

白酒小休致同日沖津宿へ

暮方ニ着

五日晚泊り沖津宿右(左)り側

ミのぶ屋

同日

一貳百四拾八文 はたご

六日雨降り

朝沖津宿(奥)より出立夫ヨリ

府中町迄不休行御城下

通り仕舞阿部川手前(安徳)ニ而

餅名物ニ而小休致此所

川越問屋ニ而賃錢壱人前

四拾五文づゝ出し川こし致

夫ヨリ丸子宿ニ而名物とろゝ汁

くい夫ヨリ宇津の谷峠十団子

より下りテ岡部宿へ出ル

六日

一 十、五拾文

阿部川餅(安倍)

一 六拾四文

丸子とろゝ汁

一 廿四文

くし柿

一 四拾八文

わらじ

一 廿八文

藤枝月代

六日晚泊リ

藤枝宿左リ側

紀伊国屋源兵衛

一 貳百廿四文

はたご

七日

藤枝宿より出立宿外レ直ニ

瀬戸川拾六文越し賃外ニ

八文心つき遣ス夫ヨリ島田宿也

大井川越賃定リ此節水増ニ付

九拾貳文之掛札有之耆人前

三百文払ひ四人ニ而連台ニ而

越し上リテ百文四人分祝儀遣ス

是ヨリカナヤ宿也峠壺ツ越し又

壺ツ登リテ小夜の中山あめの餅

峠也是より下リテ日坂宿也

日坂宿ニ而

一 四拾八文

昼飯

一 拾六文

あめ壺本

一 拾文

同餅

一 四拾文

ミかん(菓)草子

夫ヨリ掛川宿外レより

秋葉山御鳥居より入此所より

五十丁道三里行

七日晚泊リ

森町(左)右リ側

いづみや

一 貳百四拾八文

はたご代

八日晴天ニ成ル

森町より出立途中より戌亥迄^(大馬)
百四拾八文ニ而馬ニ乗リ同所ニ而

昼飯支度致八ツ半頃麓町へ

着夫ヨリ御山へ登山致し

茶漬酒肴沢山出ル茶料と

して四人ニ而式百文出し

同日泊リ麓町^(毛)右り側

高木屋安兵衛

三百文
はたご

式百七十式文

森町

一三百七拾式文 足袋耆足

一 百文 途中草子品々^(兼)

一 四拾八文 麓ニ而あんま

九日晴天

麓より出立夫ヨリ三倉ニ而

小休致し直ニ出立森町にて

森町

一七十式文 昼飯料

森町より掛川宿まで

五十丁道三里仕立加籠ニ^(兼)

乗リ耆朱ト五拾文賃錢也

外ニ四拾八文酒代遣ス

九日晚泊リ

掛川宿

ねじがね屋

一 式百四拾八文 はたご

十日晴天

掛川宿より出立夫ヨリ日坂より

金谷宿迄峠式ツ有リ此所

式百文ニ而加籠ニ^(兼)乗リ夫ヨリ

大井川賃式百七拾八文にて

越し島田宿ニ而昼飯此所より

藤枝迄式百文ニ而加籠ニ^(兼)乗リ

藤枝より岡部迄百七拾弍文ニ而
加籠(懸)ニ乗り同日泊リハ

丸子宿(左)右リ側

桑名屋善兵衛

一弍百四拾八文 はたご

十一日雨降り

丸子宿より出立(安倍)阿部川

四拾五文ニ而早朝ニ越し夫ヨリ
府中宿へ出此所より段々

雨大降りに成江尻宿へ出る

沖津清見寺前茶やにて

七拾弍文ニ而昼飯支度

此所より雪雨まじり

大降り夫ヨリさつた峠へ掛リ

八ツ半時頃由井宿(比)へ着

同日泊リ

由井宿(比)右リ側

うんどん屋

此内当宿壺番ノ能宿也

一弍百四拾八文 はたご

十二日晴天

由井宿(比)より出立夫ヨリ岩渕

栗の粉名物ニ而小休いたし

藤川(高上)廿四文船賃払渡リ

元市場白酒ニ而小休致し

夫ヨリヨシ原宿より原宿迄

百廿四文ニ而馬ニ乗り原宿ニ而

昼飯支度夫ヨリ沼津

御城下町ヲ通り同日

七ツ時頃三島宿へ着致

十二日晚泊リ

三島明神前(左)右リ側

松葉や

一弍百四拾八文 はたご

十三日雲(曇)リ

三島宿より出立テ山田茶屋ニ而
小休致此所より箱根宿迄
弐百文ニ而加籠(籠)ニ乘リ四拾八文
酒代遣ス箱根宿はふやにて
小休夫ヨリ畑宿ニ而休小田原町へ
八ツ少々過ニ着夫より大磯宿迄
金弐朱ニ而加籠(籠)ニ乘リ暮六ツ時
大磯宿へ着

十三日泊リ

大磯宿山本屋甚右衛門

一 百廿四文 はたご代

十四日天晴

大磯宿より出立厚木宿ニ而
天王町穀屋ニ而昼飯支度
夫ヨリ出星谷台畑原より
雪沢山芝原共道明キ不申
道中壺番大難儀致し
漸暮六ツ時頃目出度帰村
いたし候事

正月十四日暮六ツ時帰村

覚

同十五日昼より目出度日待
致講仲ヶ間一同寄心はかり
八升拵御神酒代例之通り
拾弐文集メ右小麦粉之分ニ
庄兵衛方より弐升菊五郎
持参参リ七ツ時所致片□
一同帰リ候事

亥正月十五日

差上申一札之事

一 柳沢八郎右衛門知行所百姓何人

右之もの共此度遠州秋葉寺江
参詣之者ニ相違無御座候間
御関所御通セ被為遊可被下候依之
通り手形奉差出候処如件

武州多摩郡下小山田村

天保十亥年正月二日 名主

何右衛門

相州箱根

御関所

御役人中様